

## 令和6年度 第2回河南町総合教育会議 議事要旨

日 時 令和7年2月20日（木） 午前11時10分～午後12時10分

場 所 河南町役場 4階大会議室南

### 出席者

|          |        |
|----------|--------|
| 町長       | 森田 昌吾  |
| 教育長      | 中川 修   |
| 教育長職務代理者 | 西川 幹雄  |
| 教育委員     | 藤原 充   |
| 教育委員     | 高井 美恵子 |
| 教育委員     | 杉田 みはる |

（町職員出席者）

教・育部 谷部長、内山理事、柏木副理事、教育課 藤井課長、こども1ばん課 山田課長  
生涯まなぶ課 森課長、学校給食センター 浅井所長

事務局：総合政策部 渡辺部長、秘書企画課 森口課長、高山課長補佐

傍聴者 なし

### 1 開会

（森口課長）

本日は、お忙しい中、令和6年度第2回河南町総合教育会議に、ご出席いただき誠にありがとうございます。

……会議の公開について確認・・・公開とする

……傍聴者確認・・・なし

それでは、令和6年度第2回河南町総合教育会議を始めさせていただきます。まず初めに、配布資料の確認をさせていただきます。

……配布物確認

それでは、お手元の次第に沿って進行させていただきます。

まず始めに、森田町長からご挨拶申し上げます。

### 2 町長挨拶

（森田町長）

皆さんこんにちは。本日はお忙しいところ、令和6年度第2回総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、日ごろから教育行政に何かとご協力いただきましてありがとうございます。この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

町では人口減少による少子高齢化がどんどん進んでいる中、そこに少しずつ歯止めをかけるということで、教育環境や子育て環境の支援に力を注いでいる状況であります。町における最上位の計画としましては「河南町まちづくり計画」がありますが、それと相まって昨年に皆さま方のご協力をいただき策定しました教育大綱に基づいて教育を進めているところです。本日は、その中で今後進めていくべきものについて、課題を踏まえた上で来年度にどういった形でやっていくかということを皆さまと議論したいと考えております。

町の方では、生まれてから中学校を出るまでが義務教育を含めて教育の場となります。その後、高校、大学へと進学しまして社会人となりますが、社会教育といいますか、生涯にわたる学びも当然ながら必要になってくると考えています。特に今は、学校教育、そして子育ての支援に重点を置いた形で進めさせていただこうと思っておりますので、そういった面で本日は今後進めていくべき事業の内容等についてご説明した上で、いろいろなご意見をいただいて今後の教育行政、町政運営に活かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### **(森口課長)**

ありがとうございました。

これからの議事進行につきまして、河南町総合教育会議運営要綱第5条に基づき、町長に議長を務めて頂きます。森田町長よろしくお願いします。

#### **(森田町長)**

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

議題(1)は「令和7年度における教育関連の主な事業について」でございます。事務局より説明をお願いします。

### **3 議題**

#### **○ 議題(1) 令和7年度における教育関連の主な事業について**

(資料1「令和7年度における教育関連の主な事業(案)」により、高山課長補佐から説明。)

<質疑応答>

#### **(森田町長)**

ただいま事務局より説明がありました。事業の中身などについて、何かご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

**(藤原委員)**

資料1の「3 学びを支える環境整備と指導体制の強化」のうち、地域ぐるみ学校安全体制整備推進事業について事業内容としてスクールガードリーダーの配置とあります。これを見る限りでは、その地域ぐるみの学校安全体制、いろいろな体制の基準や範疇がありますけれども、この推進事業の設置目的及び何を指すかという使命的なものが全く記載されていないので、その説明をお願いしたい。あと、スクールガードリーダーというのは、例えば任命する形でやるのか、それとも審査基準を設けた上で応募により採用するのか、そのあたりもここから見えてこない部分がありますので、その点についても伺いできればと思います。

**(藤井課長)**

それでは私からお答えさせていただきます。まず目的ですが、やはりここは児童生徒の安全確保ということで、基本的に通学については保護者の責任という部分が強いところではありますが、当然、学校の方でもこの安全確保について尽力しているところであり、また地域の皆様もそれぞれの活動ということで見守りをさせていただいております。教育委員会事務局としまして、スクールガードリーダーを配置することで通学途中の見守りという形での指導、例えば中学生の自転車の走行についての指導や徒歩の子ども達が車道に出ないように指導を行っております。さらには、その地域で見守りしていただいている方とスクールガードリーダーとの交流の中で子ども達への指導についての話もされることで、地域ぐるみで子どもの安全を確保する、ということを目的に設置していると考えています。

あと、スクールガードリーダーはどういった方がされているのかといいますと、警察官のOBの方に町から委嘱する形でお願いしております。導入の際の基準までは存じ上げていないのですが、やはりそういった知見を持った方が適任であるということで警察官OBに来ていただいている状況です。

**(森田町長)**

子どもの安全対策、特に登下校時にスクールガードリーダーの方を1人置いて、順次回ってもらいながら安全対策を行っているところです。ただ、1人ですべてを見れるというものではありませんので、当然ながら地域の皆様のご協力も得ながら地域ぐるみの安全対策という形で進めております。

**(西川委員)**

スクールガードリーダーの方は学校へ来られるのですか？

**(中川教育長)**

学校へ来るのではなく地域の中を回って、その地域でもボランティアで出られている方と連携しながらリーダーとしてやってもらっている。また、報告については事務局にあげていただいて、気になった点などを教育委員会と学校で共有し、学校の方でもまた直接指導が必要であれば対応する、という形で連携しています。

**(西川委員)**

過去に教育大附属小学校で事件があって以来、学校の安全ということが非常に問題となった時に警察官OBの方が学校に来られて、例えば門などの安全体制についてチェックを行い、こういうところを注意してください、といった学校内の指導をかなり受けていた。要するに外部から不審者が入らない体制についてかなり指導いただいたということで、おそらくスクールガードリーダーに近い人ではないかと思います。

もちろん、通園・通学も大事ですが、学校の中において専門家が見たときに安全のための機能が働いているかどうかというアドバイスをもらうことも大事ではないかという風に感じました。

**(森田町長)**

今の西川委員の発言を受けて、現在の学校内の安全対策はどのようなになっていますか？

**(内山理事)**

今のお話でいくと、交通安全のための見守りではなくて校内で行われる不審者が来た時の想定ということですが、当然ながら、子ども達の安全を促すような形で教育の方で進めさせていただいています。また、必要に応じて富田林警察といった警察の方に来ていただいて、避難訓練などの指導や直接子ども向けの指導をするということも考えられます。あるいは、教員が子どもを守るという意味合いでどういった認識を持っておく必要があるのか、ということを事前把握する形で、年度によっては警察の方から指導を受けているようなこともあります。

**(森田町長)**

他になにかご意見などはございますか。

### (高井委員)

この教育支援センター事業というのは、本当にありがたい事業だな、と思っています。さらに、令和7年度からは中学校への出張型支援ということも書いてあって、なかなかこの近隣でもそこまでできているところはないと思います。ただ、先の教育委員会の定例会でも言いましたが、現状は元の公民館で実施しているということで、今後、この不登校の子ども達を支援する場として、どういった形の整備を行っていくのか。当初、この公民館で始めたということで定着している形ですが、それを今後どんな風にしていくのかという議論もしてもらいたいです。施設の整備となると、またお金がかかることですので、直近でやるのは難しいかもしれませんが、ゆくゆくはきちんとした場所ができれば、とすごく思います。

あと、学校照明をLED化するということですが、それ以外にも学校の壁、廊下の壁がぼろぼろになっているところをいつも視察に行ったときに思いますので、新規事業の時にいろいろチェックしてもらって、その次の年にまた繋げていくという形でお願いしたいです。環境整備はとても大事だと思っていて、例えば、河南町に引っ越してこようとする若い世代の人たちが、どんな学校なんだろう、どんなこども園なんだろう、というのは絶対最初に見るところだと思うので、そのあたりから子ども達が過ごしやすい環境を整えていってもらえればいつも考えています。

### (森田町長)

本町でも不登校の子どもがゼロではないということで、そういった子ども達の受け皿づくりといいますか、それは当然ながら必要になってきます。教育委員会による受け皿もありますし、他にも民間団体やNPOといったところの受け皿もあります。どこを選ぶのかについては、子どもの選択肢もあるでしょうし、保護者の意向もあるかと思うので、そういった中で我々としては、不登校の子どもが社会に馴染むといいますか、いい友達関係を構築できるような環境づくりができたらと思っています。ただ、なかなかそこに入っていけない子どもをどうしていくのかということもありますので、今は元の公民館の1室で実施しているところですが、そこに必要なものをどうしていくのか、当然ながら教育委員会とも相談しながら、先ほどおっしゃられた施設の整備なども含めて検討すべきかと考えています。

また、各施設については結構年数も経っていますし、大規模改造もやっているところではありますが、すべてまっさらというのはなかなか難しく、やはり安全面、耐震化といったところに重点を置いた上で、あとは子どもの教育環境を重視して限られた予算の中でいろいろと調整しながら頑張っていきたいと考えています。なお、令和7年度に予定している教育関係予算は結構プラスした形になっていまして、施設の整備という面では来年度は特に大きなものではなくてテニスコートの改修くらいになりますが、私立の石川こども園は大規模改造

を実施して保育環境の整備であったり、建物で悪くなっているところを修繕したり、ということをして2か年に渡って進めていくことにしています。加えて、学校給食費の完全無償化ということで、完全にすべての子どもの学校給食を無償化しようと思っています。ただ、私立の小中学校に通っている子どももいますので、そちらについては補助という形で行います。給食に関しては、各学校で給食費を取っていたり取っていなかったり、そもそも給食ではなくてお弁当を食堂で食べる、とまちまちですので、補助額については町立小中学校と同じ範囲内にして不公平感のないようにしたいと考えています。

#### （杉田委員）

学校給食に関して、私は不登校で普段給食を食べていない子ども達が指導教室とかで給食を食べられるようになったらいいなと思っています。河南町内の教育施設以外の施設に通っている子どもへの支援というのももちろん大切ですが、まずはそこに在籍している子どもが全員享受できるような仕組みになっていけばと思います。特に小学校の高学年ぐらいから中学生になると、小さい時と比べて全然食費の負担も違うので、毎日の昼食を不登校であるがために食べさせてあげられないという状況は何か解決方法があれば、と感じています。

#### （森田町長）

給食費の無償化については、町立小中学校及びそれ以外の学校に通学している子どもを対象として、その中には支援学校なども含まれますが、現状すでに無償になっている学校もあるでしょうし、そこは調査しながら進めていくことになります。特に、現在、学校に行っていない子どもへの対応をどうするかということは制度設計を考えていきたいと思っています。ただ、私立に通学している子どもでお弁当持参の家庭もあって、そこについては金額がいくらかと決められない部分がありますので、上限としては町立小中学校と同程度ということで考えています。

#### （西川委員）

今回の教育予算に関して、特に働き方改革の面でいろいろな支援も盛り込まれていて、いいなと思っているところですが、教職員に対して、また違った支援の仕方はないかいつも考えているところです。2日前の読売新聞にはこんな相談コラムが載っていたので、この場で紹介します。

20歳半ばの女性、念願の小学校教諭の職について3年目です。子供にかかわれる職業を選んだことは、後悔していません。実際、教育の現場は想像以上に過酷で、平素の学習指導はもちろん、保護者対応、放課後対応、不登校や特別支援教育への対応など、体がいくつあっ

でも足りません。超過勤務は当たり前で、このような働き方では自分のライフスタイルを進めていくにはとても不安を感じています。先輩の皆さん方には何とかなるよ、と応援をさせていただきますけれども、念願の教員になったのにちょっと苦しんでいます。でも、これからを担う子供たちと一緒に成長していきたいと思います。

という内容でした。実は、メンタル面で先生方が退職に追い込まれるということが結構多くあって、特に3年目から5年目くらいになりますが、そこを乗り越えればまた1つステージが上がるんですけども、そういう意味で先生のメンタル面をサポートできるような支援があればと思います。例えば、校内で問題を抱えて休職まで至るような場合、かなり重度な状況になってるという経験を私も持っていて、できるだけ早い段階で悩んだときには相談できる体制といったものが何かシステムの出来ないか、ということを教育長とも常々お話をさせていただいています。やはり、先生がわくわくしなければ、子どもたちもわくわくしない、学校であれば校長先生や教頭先生がわくわくしていただけたら、先生方も粹に感じて仕事に取り組もうという流れができると思います。学校全体がしんどくなると先生方もしんどくなるということもありますので、働き方改革で業務支援などいろいろな手立てを考えてもらっているのはありがたいですが、仕事だけでなくメンタル面でも何かサポートできることがあればと考えています。

これは1つ提案なんですけど、私の経験では産業医の方が年に何回か学校に来ていただいて先生方の体やメンタル面の相談ができるというシステムがありました。そのシステムが河南町にもあるのかどうかは分からないのですが、産業医の方に来ていただいて先生方の今の悩みであったり体調不良であったりを相談できるシステムができないか、もちろん校長先生を中心に何でも話をできる、あるいは相談できる体制をつくることも大事ですが、そういった専門的な方にも入ってもらって、メンタル面でサポートすることができないかということを考えていました。せっかく教育大学を出て、子どもと一緒に頑張っていこうとしていた新卒の方が、5月に入ったらもうお休みされるという状況も見えてきますので、何とか先生方の精神面をサポートする体制ができないかということを知る範囲で教えていただきたいです。

#### (谷部長)

産業医の件ですが、50人以上の職場であれば産業医を選任するという労働安全衛生法の規定があります。学校現場につきましては、50人以上ではないので産業医の選任は必須ではありませんが、やはりメンタル面で不調を抱える方がおられるということで産業医についても必要ではないかと感じております。私が以前に人事担当をしていた時に、そういった話を教

育部から受けたこともありましたので、町の方には産業医がいることから町部局と対応について協議しまして、産業医の方を利用できる制度を検討していきたいと考えております。

#### **(西川委員)**

私の経験だと近所の医師の方でも全員が産業医の資格を持っているわけではなくて、校医の方でも産業医の資格を持っていないので違う方が来られるということで、産業医の方が先生どうですか？というような声掛けをしてもらっただけでも結構心強かったです。ですので、そういった制度がうまく実現できればと思います。よろしくお願いします。

#### **(森田町長)**

この問題は、学校現場に留まらず町内部の組織や一般企業など、さまざまなところでメンタル面での悩みを抱える方がいるということで、町でも職員向けのメンタルヘルス研修の実施や産業医を委託して設置ということをやっております。また、年1回の健康診断において、相談希望があれば相談日を設けて受けるということもやっていますけれども、なかなか相談に行きにくいというような面もあるかもしれません。心の悩みを抱えている職員も増えてきていますし、やはり学校現場では特にそういったメンタル面でもサポートが必要になってくると思いますので、少しでも相談できるようなところがあればと考えています。町の産業医も利用できるのであれば利用してもらえればと思いますし、あとは大阪府の教育委員会の方ではどんな形でのサポートがあるのかを含めて、相談体制ができるようになればと思います。

#### **(藤原委員)**

資料の1番目、確かな学力の定着と学びの進化の中で、森林学習推進事業として小学校5年生を対象に森林・環境保全への関心を高める体験型学習を実施と挙げられています。これをさらに進化させていただきたいということをこの数年ずっと思っております。その理由ですが、私は小学校3年生の時にボーイスカウトに入団し、活動していたのですがそれがすごく楽しくて、東京の大学に進学してからもジャンボリー大会などに子ども達を連れて参加したこともあります。その時に思ったのは、やはり野外活動、自然活動という自然にある植物や動物との触れ合い、満天の星の素晴らしさなどを体験することは、人間の感性をすごく育ててくれるということです。学校の教科学習では感性というのは当然育ちませんので、体験型の学習というものをより進化させていただきたいという思いがありました。思い起こせば河南町には過去に青崩のキャンプ場があって、私も父親に連れられて1泊2日のキャンプに何回か行ったことがあります。時流から言いますと、キャンプ、しかもソロキャンプがすごく流行っていて、その理由の1つが精神的にストレスの溜まった社会人が自分を癒したい

めに1人でキャンプに行っているとのこと。私が思うのは、そういうことを考えた時に自身が青少年指導員を28年間続けた中での核心部分が2つあります。1つ目として、これはもう子ども達に言ってますけれども、子どもというのは夢中になる才能がみんなにあるということ。2つ目は夢中になれば寝食を忘れてやる、わくわくするものも同じく寝食を忘れてやる、ということです。このわくわくする体験づくりの環境というのは、やっぱり私たち大人が作るべきなんです。そういう意味で河南町立のキャンプサイトといったものを作っていたきたいなという思いがまずあります。そこに子ども達を連れて行くことはもちろんなんですけれども、先ほどの話に関して先生方だけのキャンプをしてもいいと思うのです。先生方を屋外に連れ出して、一緒にご飯を作って自然を楽しんで、夜になったらキャンプファイヤーを囲んでお互いの悩みを話し合う、そういった職場を離れた環境であれば自然に悩みも話せていくと思います。一緒に青少年指導員をやっている方の中には先生もおられて、いろいろ要因はあるかと思いますが本当に大変だという言い方をされています。河南町の特性である山や田園といった自然の資産を活かした施設づくりを考えていただいて、子どもの教育のみならず、先生方の癒しの場が1つぐらいあってもいいのではないかという思いです。私の希望ですけれども、町長含めて考えていただいて実現できたらありがたいなと思います。

#### （森田町長）

今のお話にあったように自然の中で活動といいますか、心を癒すということで、田舎志向もこれに関連するのかなと思います。これまでも金剛葛城山系でのダイヤモンドトレールといったハイキング登山をされる方々のための駐車設備や、あとは昔にはあったキャンプ場のような整備ということで、議会からもいろいろ要望をいただくこともあります、なかなか場所や運営主体をどうするかなどいろいろ課題もありますので、ご意見として伺って実現できるかどうかこれから検討していきたいと思います。

#### （高井委員）

教員の働き方について、来年度はデジタル採点支援システムを入れていただいたということで、これですごく時間が短縮できるという話を聞いていますので、河南町で働いている先生方の仕事の負担が少しでも減って、また違うところにエネルギーを使ってもらえるということでよかったな、と思います。部活動の地域移行もなかなか進んでいかないうちで1人来ていただけるだけでも大きなことですし、先生方が働きやすいような環境というところに予算をつけてもらっているのはすごくいいな、と思いました。

**(森田町長)**

デジタルに関して、今はデジタルとアナログの両方がありますが、やはり子育てについてはデジタルもありますが、アナログが主になるのではないかと思います。その中でもデジタルをうまく組み合わせることで相乗効果が得られるのではないかと考えていますので、役所の中もそうですけれども、デジタルを採用してどんどん省力化していきたいと思っています。町では、新たに一括してデジタルによる書かない窓口というものに取り組んでおりまして、窓口に来られた方の身分証明を確認して1回書いてもらおうと次からはもう書かなくていいという形にしようとしています。国の制度ではスマート窓口と言っていますが、1つの窓口で受けたものが連携して他の課にも行くようにして完結すると、そういった仕組み作りを本格的にやろうとしているところです。学校の方もそうであればいいと思いますが、なかなかそうもいきませんので、1つでもやってみてうまくいけば増やしていけばいいし、少しまずいなということであれば違う方法を考えていけばいいかと。今回はその取っ掛かりということで導入した結果を見た上で、先生方のご意見も聞きながら進めていきたいと考えています。

**(森田町長)**

いろいろとご意見をいただきましてありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

次第の方で、続きとして(2)その他もありますので、この機会に何かございましたらご発言いただければと思います。

**○議題(2)「その他」**

(一同)

特になし

**4 閉会**

**(森田町長)**

ないようですので、これをもちまして、今回の総合教育会議を終了といたします。進行を事務局にお返しします。よろしくお願いします。

**(森口課長)**

これをもちまして、令和6年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。本日の会議の概要につきまして、運営要綱第8条に基づき、後日町ホームページ上で公表させていただきます。

議事録ができましたら、各委員にもご確認いただきたいと思いますので、併せてよろしくお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。